

NDCs We Want Assessment

実施日：2026年2月25日
 作成：WWFジャパン
 評価対象：NDC3.0 (2025年2月提出分) と前回のNDC (2021年10月提出分) の比較による

WWFは、各国の「国が決定する貢献」(NDC)が、パリ協定の1.5度目標に整合した実効性ある気候行動の「野心」と「実施」を確実に推進するよう取り組んでいます。「NDCs We Want」チェックリストや国別評価などの施策を通じて、進捗を追跡し、改善点を明らかにするとともに、より強力で、ネイチャーポジティブに資する気候変動対策を後押ししています。詳細はこちらをご覧ください：panda.org/NDCs

全体評価：

日本のNDC3.0では新たに2035年・2040年の排出削減目標が設定されたが、2030年目標は更新されなかった。2035年目標の設定は前回のNDCからの進展といえる。しかし、当該目標の水準は2019年比で約53%減と不十分に留まっている。これは、科学的知見から1.5度目標を達成するために必要とされる水準、特に排出削減に向けた高い能力のある先進国に求められる水準には及ばない。WWFジャパンの分析では、2035年までに2019年比63%減が達成可能であると示されている。

主要な懸念点として産業政策の強い影響が挙げられる。GX政策の下、産業の負担をなるべく小さくすることが目指されていることで、気候変動対策の野心が制約を受けてきたほか、石炭火力発電の段階的廃止や「キャップ」が設定された実効性ある排出量取引制度といった施策に遅れが生じている。

主な進展と要改善点：日本はNDCを早期に提出したとともに、ステークホルダーエンゲージメントを拡大した。他方、野心は低いままであるほか、カーボンプライシングは弱く、気候変動対策と自然環境保全のつながりは構築途上である。社会の多様な意見をNDCへ実質的に反映するために、パブリックコメントを含む検討過程をいっそう改善するべきである。

NDCの効果的な実施に向けた提言：

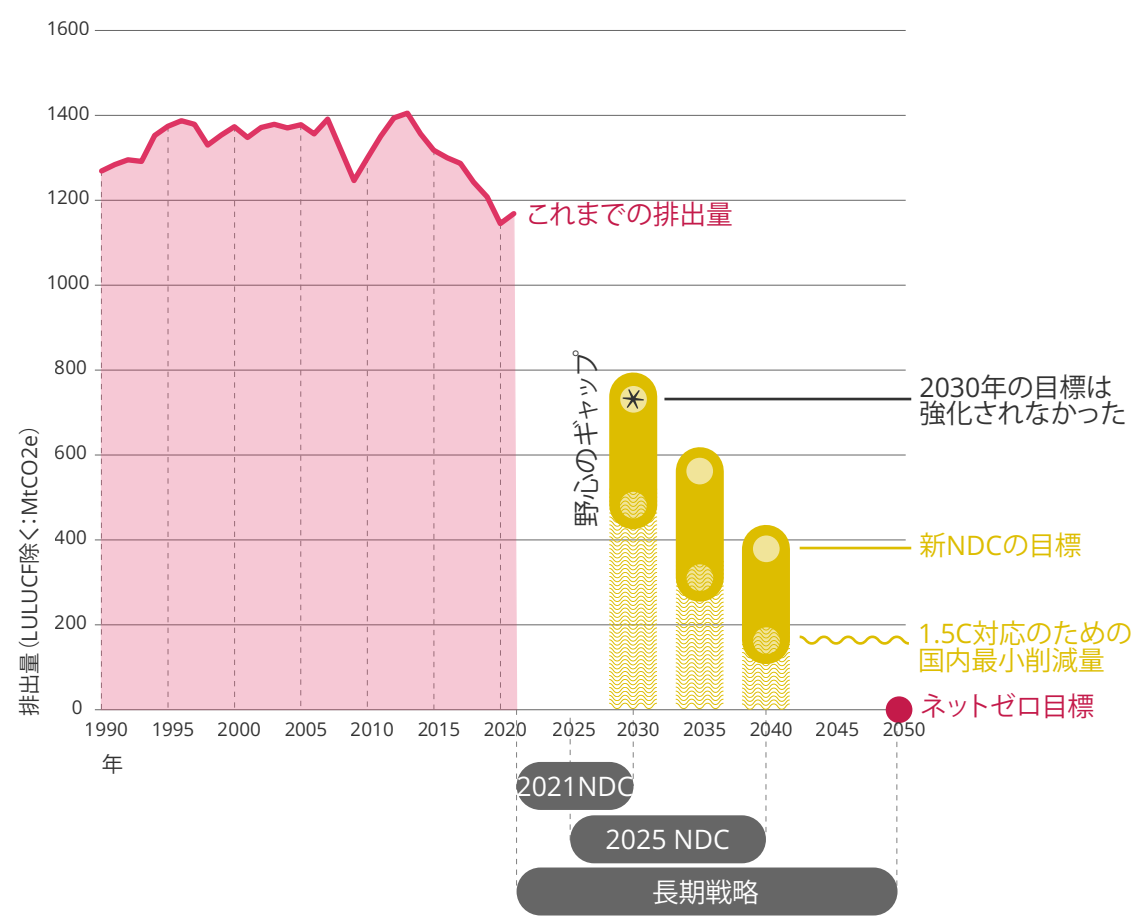
日本は、排出削減目標を強化すると同時に、NDCの実施も加速させなければならない。新しい排出量取引制度(GX-ETS)は2026年4月から開始するが、これは望ましい一歩である。しかし、産業の脱炭素化を実質的に進めるには強化しなければならない。当該制度では、総排出量に確固とした上限(キャップ)が設定されるべきである。また、国際的な指標と整合させるのに十分な高い水準で、炭素価格の上限を設けるべきである。例えば、IEAは1トン当たり140ドルの水準を示している。加えて、自然と共生した再生可能エネルギーの導入を拡大するための法制度を実現するべきである。屋根設置太陽光パネルを、新築住宅や建築物の標準設備として義務づけるべきである。並行して、再生可能エネルギーの導入にあたってのゾーニングや計画策定を支援するために、政府は自治体に経済的インセンティブを付与することが求められる。

本インフォグラフィックの読み方：

このインフォグラフィックでは、WWFの「NDCs We Want」チェックリストに基づく評価結果を示しています。当該チェックリストは、各国の気候変動対策に関する計画がパリ協定に整合しているか、時間の経過とともに野心を向上させているかを評価する実践的フレームワークです。24の基準にわたる5つの分野を確認し、進捗状況の総合評価を導出します。本インフォグラフィックにおける各セクションは分野ごとのパフォーマンスを示しています。中央には総合評価があり、前回の評価スコアとともに記載されているため、経時的な変化を明確に把握できます。

パフォーマンスの色別表示：オレンジ色や赤色、灰色のトーンは野心の低さや情報の欠如を意味しています。一方、黄色や緑色はより強い整合性や十分なカバー範囲であることを反映しています。この視覚的なサマリーは、各基準を説明する詳細な技術的評価によって補充されます。詳細はこちらをご覧ください：panda.org/NDCs

排出削減目標は1.5度に整合していない



目標：日本は2013年比2035年60%減・同2040年73%減にコミット

*出典：Climate Action Tracker by NewClimate Institute and Climate Analytics.

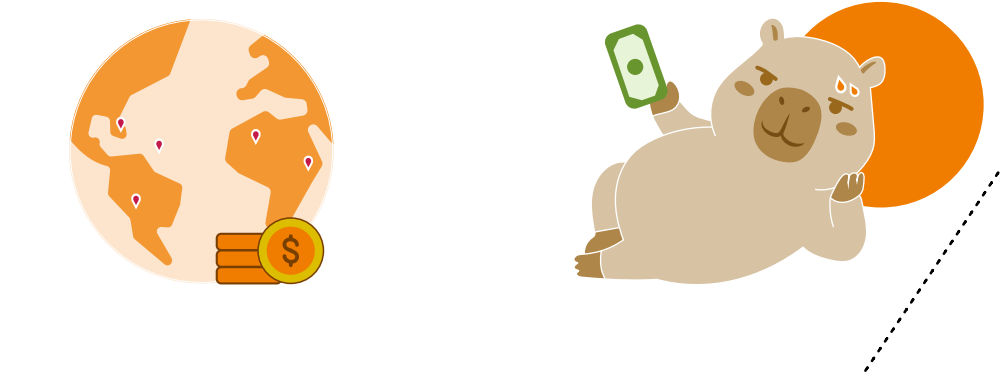
70億ドルを2030年にかけて気候資金としてコミット

???? 民間投資の内訳は不明

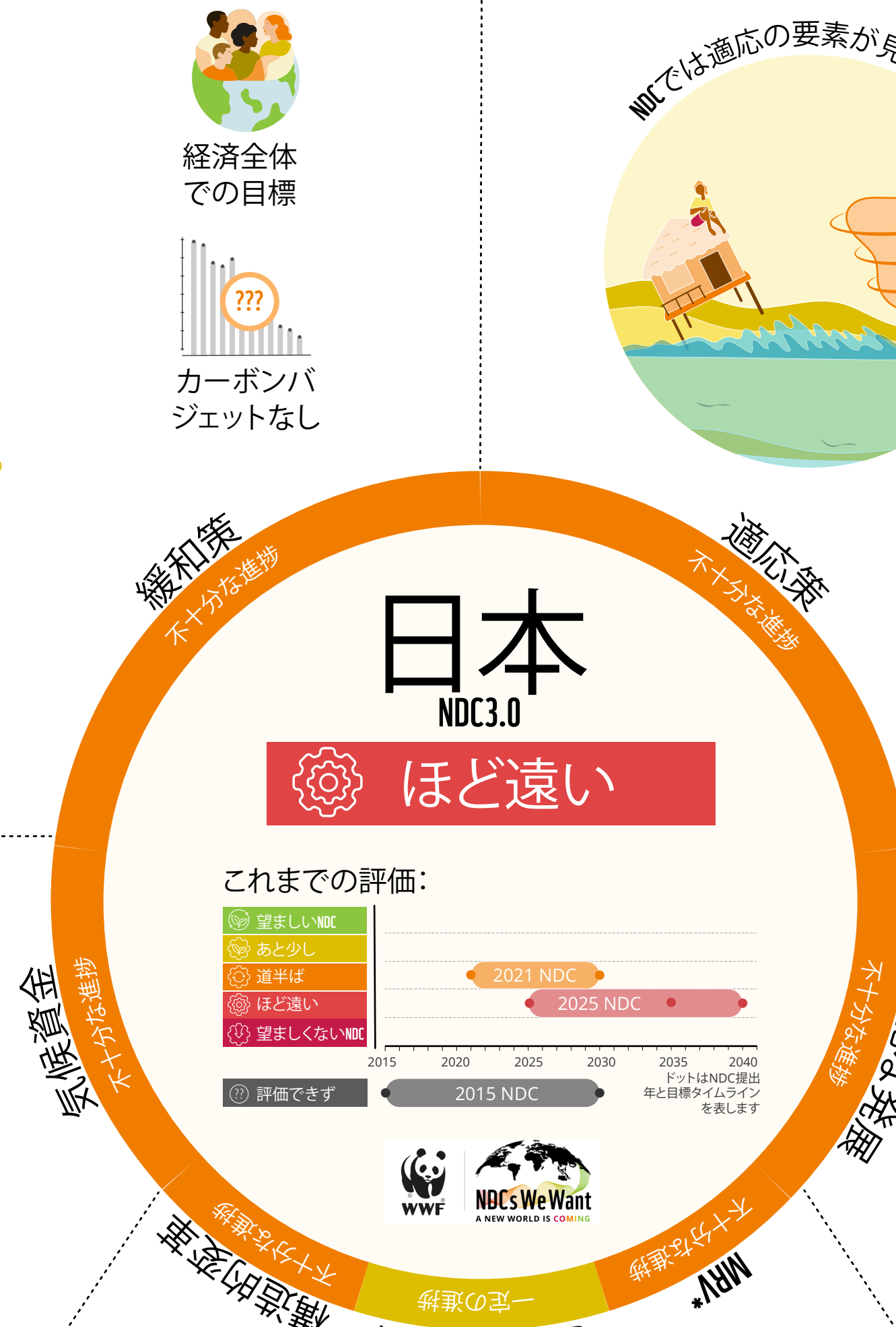


???? 国際支援に充てられる金額は不明

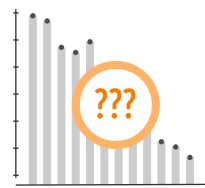
???? 適応に関する国際支援に充てられる金額は不明



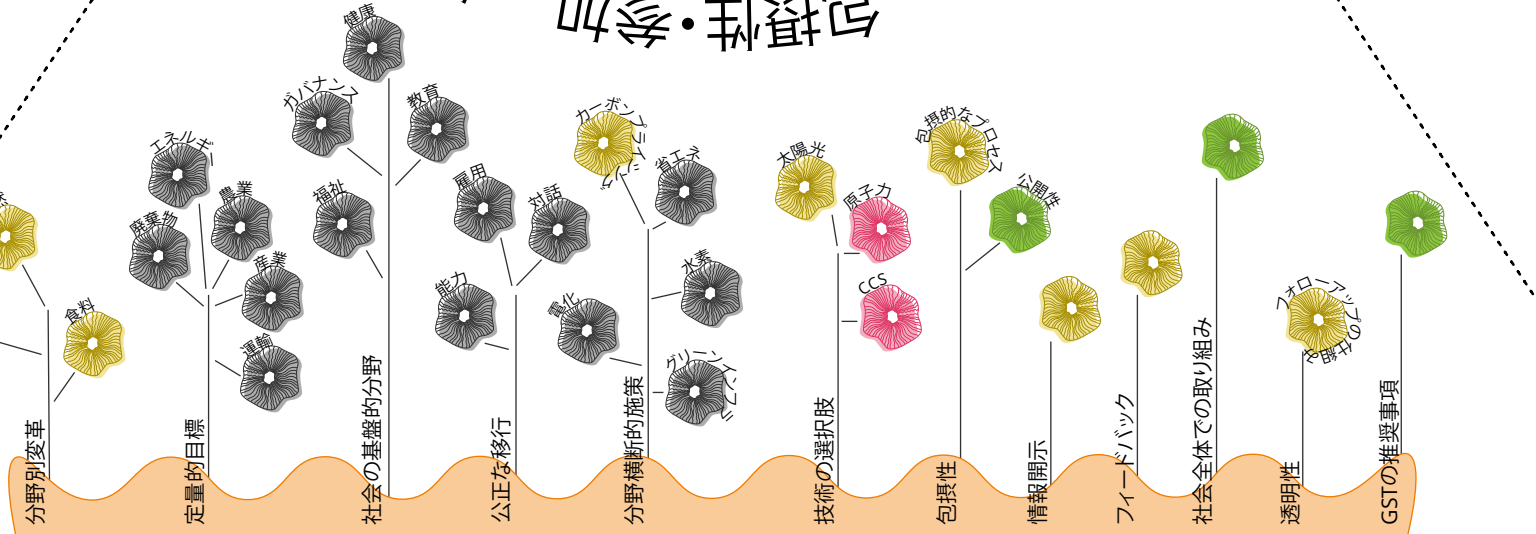
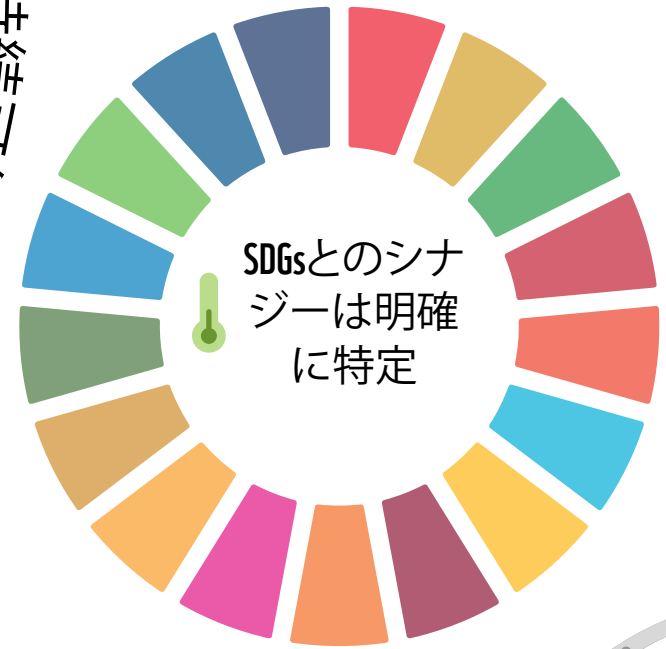
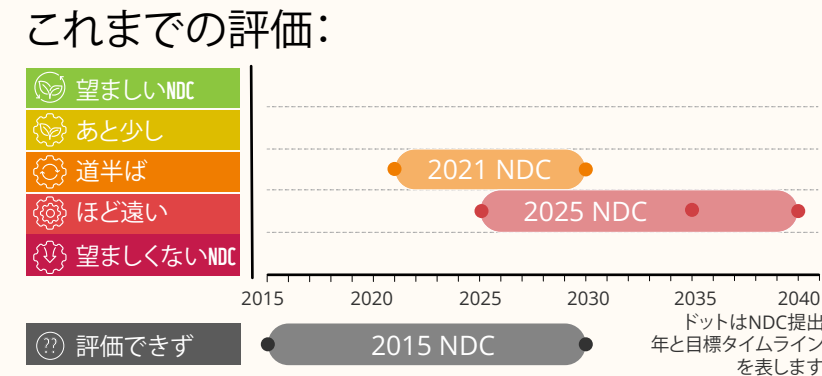
気候変動対策に十分な資金を供給するための、透明性・信頼性ある情報がNDCに含まれていない。



経済全体での目標



カーボンバジェットなし



注釈：緑色の葉は当該論点がNDCで十分に言及されていることを、黄色の葉は一部言及、灰色の葉は言及されていないことを示しています。ピンク色の葉は注意を要する技術であり、WWFは原子力や炭素回収・貯留技術(CCS)などについて具体的なポジションを策定しています。

*MRV: 測定、報告及び検証
 TAFF: 化石燃料からの脱却